



今回のベタンク交流大会出場に際しまして、中央地区の皆様からの励ましが多大なご芳志を賜り、本当にありがとうございました。

さて、ベタンク交流大会は、鬼木総合公園多目的広場で、北海道〜沖縄の64チームで決勝ラウンドを目指して10月29日に予選を行いました。我がteam MATSUMOTOは健闘した結果、惜しくも1勝2敗で予選敗退となりました。他県の皆さんと交流した際、練習は週3回、あるチームは毎日している聞きびつくりしました。次回のねんりんピック出場を目標に練習を重ねリベンジしたいと思

います。

👑**投球順1 高野 和子**

一昨年10月、県大会において、いきなり全国大会の切符が舞い込

んで来ました。生まれて初めて私の身に降りかかってきた大事件でした。

全国の壁は高かった!!でも1勝できたのは仲間の協力と後押ししてくださった皆様からの厚いお気持ちがあったからだと感謝します。楽しく、また勉強になった2日間でした。ありがとうございました。

👑**投球順2 山本 文彦**

予選3試合で1勝2敗。残念ながら決勝トーナメント進出はなりませんでしたが、全国レベルの高さを感じつつ、もうちょっと頑張つてあと1勝すれば決勝トーナメントに行ける!という手応えも得られた大会でした。大手A・B・Cどのチームが出て

も、このチャンスはありますので、次回の県大会優勝を目指して頑張りますよ。

👑**投球順3 藤森 典人**

ねんりんピック愛顔のえひめ2023に参加して、中央地区の皆様から物品両面に渡り、ご協力を賜り誠

に有難く、厚く御礼申し上げます。日頃の練習の成果を発揮できず、予選リーグを埼玉県チーム「こぼとん」と対戦し、完敗し、全国レベルの高さに圧倒されてしまい、自分達の力を出し切れず、1勝2敗で予選落の結果に終わってしまいました、皆様のご期待に沿えず申し訳ありませんでした。

監督兼選手 高野 隆治
総会開会式は、愛媛県総合運動公園陸上競技場(ニンジニアスタジアム)に杉子女王陛下を迎え選手入場行進・秋川雅史氏の国歌斉唱で始まりました。選手8、760人と関係者一般合わせ17,000人が集結しました。交流大会開始式は、鬼北総合公園多目的広場アリーナに64チームが集い、町民の方々の厚いおもてなしの開始式でした。大手公民館に飾ってある「桃太郎旗」は鬼北町近永小学校の児童が描いたものです。



北九州のチームと



ベタンククラブ選手団

長元坊 チョウゲンボウ

松本城本丸庭園の南西、月見櫓の隅に牡丹園があります。この中に「殿様の白牡丹」と言われる小笠原牡丹が七株程度あります。この牡丹は、一五五〇年小笠原長時が武田信玄に追われて山辺の林城を去るとき、山辺の兎川寺の住職に大事にしていた牡丹を託したと伝えられ、檀家の久根下家で四〇〇年余にわたり「殿様の白牡丹」として大事に守られて来ました。

昭和三十二年十一月に小笠原氏の子孫十六代である忠統(ただむね)氏へ贈られ城に移植されました。その後ボランティア団体松本古城会婦人部の人達により、冬の厳しい寒さから木々を守る

中央地区の樹木 18

ナナカマド(七竈)

原産地は日本・韓国。バラ科ナナカマド属の中高木。花は白で5〜10ミリ。花期は5月〜7月。実は秋に赤く熟す。花言葉：内に秘めた情熱



ナナカマドの名の由来は、釜戸の火に七度くべても燃え残るほど、堅く燃えにくいことからつけられたと言われています。秋から初冬を

る為の雪囲い「わらぼっち」で丁寧に覆います。「わらぼっち」は稲わらを束ねて作ったもので、毎年十二月一日に行われる松本城の風物詩の一つとなりました。古城会婦人部のメンバー二十数名が作業にあたり、翌年の三月十五日に「わらぼっち」を取り除きます。

代表する広葉樹で房状に赤く熟した実はよく目立ち、一月くらいまでは鑑賞することが出来ます。本来は亜高山帯の寒冷な地に育つ木のため、松本では余程条件のよい場所以外は大きく育たないようです。

ナナカマドの実は中央地区では大名町通りに街路樹として植えられています。(U・M)

未来を考える 視察研修

大手公民館が12月1日に開いた「未来を考える視察研修」西大糸線」の日帰り研修会に、遠藤彰館長ら21人で参加しました。公民館前からバスで南小谷駅に向かい、大糸線に乗り換えました。JR西日本が運営する非電化のローカル線で



車内の様子

バスに乗り料理店で新鮮な海鮮料理を頂きました。西大糸線は沿線人口の減少や、利用客がコロナ禍前に戻らないと想定される中で、持続可能な交通体系をみんなで考える視察となりました。(M・M)

城南あさ市の歩みとこれから

1両編成のワンマン車両に、糸魚川駅まで乗りました。途中の駅で降りる客はほとんどなく、停車したか気付かない駅もありました。駅周辺の様子は人影がなくて、乗客は貸し切り状態の車内に入り、戸惑っている様子でした。終点の糸魚川駅に着き私たちが下りると乗務員も下車しました。銀ねず色の車両にオレンジ色と赤の線が入った1両だけが誰もいないホームに残っていました。

記念写真を撮ろうと、友人と2人で車両だけでなく自分たちも入れて写しました。気が付くと仲間どころか人の姿がありませんでした。階段を駆け上がり構内を探すと、館長が見つけてくれて合流できました。改札口で乗車券に「乗車記念」の捺印を頂きました。

高齢者などいわゆる「生活弱者」に外出の機会の提供や公民館・福祉ひろばを活用した安全な居場所づくり、また一般市民・観光客に対し地産地消を推進する事を目的として、近隣七町会・大手公民館・福祉ひろばが中心となり実行委員会を組織し、正式には令和元年六月から月に一回、概ね年に六回ペースで、大手公民館で開催してきました。

これまでに、今井地区深山農業塾・波田恋人の丘サララマーカーツト、四賀会田養鶏、街の

「よつこく朝市」六年目を終えて

平成三十年六月二十四日から始まった「よつこく朝市」が、十一月二十八日で六周年を無事に終えることが出来ました。

これには、お城北側に隣接する四町会（大柳・丸の内・鷹匠・北馬場）と地域づくりセンターとして今井の深山農業塾・四賀のしのめバザールの皆さん、さらには毎回ご来場頂いた地域の皆様のご支援ご協力のお陰であります。



城南朝市の様子 令和4年6月撮影

お城北側に隣接する四町会が、中央地区・城北地区の垣根

を越えてスーパーが撤退して買い物難民地区と化した地域で、もう一度品物を手に取り品定めをしながら買い物をする楽しさを取り戻そう、さらに生産者さんの顔を見ながら触れ合い、地域の人が交流できる場所を作ろうと始めました。開催場所は、当然ながら松本神社境内しかなかった。神社からも快諾を頂き、地域住民の寄り合い処としての本来の神社の姿を取り戻して来ました。「よつこく朝市」実行委員会は、地域住民と行政との協働事業という関係者の皆さんのご理解とご協力のもと運営であります。

始めた朝市ですが、どうせなら三世代が交流出来る様にと、上土商店街様より綿あめ機を借り受け幼児や学童の取り込みも行いました。場所柄もあり観光客の来場も多く、無料休憩所の「寄ってきま処」では、飲み物の提供に留まらず季節の果物の試食なども行い、老若男女を問わず幅広い層の交流の場となっています。

これまでは、今井地区の「深山農業塾」・四賀地区の「しのめバザール」の皆さんにご協力頂いて来ましたが、もう一地区増やして品数を増やして自身の充実を考えています。七年目に向けて、より一層地域の皆さんに喜んで頂き交流の場として更なる活性化を目指して行けたらと考えています。

令和五年十二月二十九日
実行委員長 中田 充



よつこく朝市実行委員